日本技術士会北海道本部
防災委員会　都市部会
文責：防災委員会 都市部会　**岡田　務**

～ 千島海溝沿いの巨大地震に伴う津波災害への備え ～

浜中町「津波防災事業」への取り組みと役場庁舎を視察して

1. はじめに

防災委員会では、北海道での大規模災害の発生に備え、防災・減災に向けた基礎資料とすることを目的として、地震・津波の被災状況や復旧状況、また近年多発している豪雨災害の復興状況などを対象に、各地を視察する「防災研修会」を実施しています。2023 年度は、千島海溝沿いの巨大地震による被害が想定される浜中町を対象とした研修会を実施しましたので報告します。

2. 道内研修会の実施概要

・開催月日：2023 年 7 月 28 日(金)
・参加者：都市部会メンバー 15 名
・視察先：浜中町役場

浜中町役場では、石塚防災対策室長（現副町長・以降は副町長と表します）に津波防災事業の取り組みと新庁舎内の案内を頂きました。

写真-1　石塚副町長による概況説明

(1)　町勢概要、過去の津波被害と対策実績

①　浜中町の概要

浜中町は、北海道東部の釧路地方最東端に位置し、町域面積は 423.63km^2、海岸線は 67km に及んでいます。漁業と酪農業が盛んで、「ハーゲンダッツ」の原料乳を生産していることでも有名です。また、ルパン三世の原作者「モンキーパンチ」の出身地でもあり、町内にはルパン三世のモチーフが飾られています。人口は、昭和 35 年の 11,915 人をピークに、令和 2 年国勢調査における人口は、5,507 人となっています。

②　過去の津波被害

1952 年十勝沖地震津波、1960 年チリ沖地震津波、2011 年東北地方太平洋沖地震津波があり、特にチリ沖地震津波では、浜中町において津波高 4.3m を記録し、死者 11 名、被害者 2,760 名、被害戸数 534 戸の大きな被害が発生しました。

③　これまでの対策実績

浜中町では、過去の被災経験、また後述の想定地震・津波などを踏まえ、住民の生命・財産を守るための多様かつ先進的な取り組みを進めてきました。

ハード対策として、海岸防潮堤の整備や防潮堤のかさ上げ、また今回視察させて頂いた新庁舎は、2021 年 1 月、旧庁舎裏の高台（海抜 42m）に移転しました。庁舎敷地全体が防災拠点として位置付けられており、庁舎は地階に積層ゴムなどを配した免震構造となっています。さらに避難道路・階段の整備、誘導標識や海抜表示板の設置、避難場所として利用できる広い駐車場とこれに隣接した備蓄コンテナの整備などが行われました。

また、同じく新庁舎内に移転した津波防災ステーションでは、水門・陸閘の開閉作業の遠隔操作、潮位等の監視、防災行政無線による情報伝達などを迅速・確実、かつ一元的に行える体制としています。

写真-2　庁舎前駐車場と備蓄コンテナ（左上部）

写真-3　津波防災ステーション（町長室に隣接）

また、ソフト対策は、防災マップ配布、避難経路を示した津波避難計画策定、防災教育の段ボールベッド組立の出前講座の他、毎年 5 月 24 日（チリ沖地震の被災日）に津波避難訓練を実施しています。

写真-4　出前講座（段ボールベット組立）

(2)　千島海溝沿い巨大地震・津波への対応

①　浜中町における想定地震と津波

2020 年 4 月、内閣府は「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル」を公表し、千島海溝（十勝・根室沖）モデルでマグニチュード 9.3、震度分布は浜中町で震度 7 となりました。このモデルを基に北海道では、2021 年 7 月に「太平洋沿岸の津波浸水想定」を公表しました。

図-1　津波浸水想定（出典：浜中町提供資料）

これによると、最大津波高 20.3m、浸水面積 5,013ha となります。

②　人的被害想定

北海道庁は 2022 年 7 月、浜中町における人的被害想定を公表しました。全壊棟は最大 4,000 棟、人的被害は冬の深夜で早期避難率が低い場合は 2,700 人、冬の夕方は 2,600 人、夏の昼間は 2,200 人と想定しています。このことは、全住民の半数近くが死亡するという、非常に厳しい想定となりました。

③　津波被害軽減に向けた今後の取り組み

2021 年 10 月に実施した津波避難訓練の結果、「津波避難困難地域」への対策が急務となり、避難対策検討会を設置し検討しました。その結果、「千島海溝巨大地震特措法」による津波避難対策緊急事業として、津波避難タワー整備（4 基）、避難高台造成等を 2027 年までに整備することになりました。また、ソフト対策として、防災訓練・避難訓練の実施（冬季間の訓練等）、防災教育・啓発活動（VR 動画の活用等）を継続・実施し、防災意識向上を図ることとしています。

説明の最後に、「津波はいつ来るかわからないが、少なくとも人命を守ることが重要である。」と石塚副町長から力強いメッセージがありました。

3. おわりに

帰路、「みたびこの災害をくりかえさないように」との願いが込められている母子像を見学しました。今回の研修会を通じて、差し迫る巨大地震・津波による被害を最小限にするためには、家庭・職場・地域等において地域事情を理解の上、人命の安全を第一として、ハードとソフト対策を組み合わせた地域防災力の強化が必要と痛感しました。

写真-5　復興記念母子像